

住宅用火災警報器の奏功事例

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令和4年1月	10時30分頃	居住者がトイレに入っていたところ鳴動音に気付き確認したところ、室内に煙が漂っていたため屋外に避難した。	全焼	不明
令和4年2月	19時30分頃	風呂たき口煙突周囲の外壁から出火。火元建物1階にいた居住者が、2階の住宅用火災警報器が鳴動しているのに気づき、初期消火及び避難を実施。初期消火は失敗したものの、近隣在住の消防団員が自己覚知して消火活動を実施。火災を部分焼にとどめ、負傷者等も発生しなかったもの。	部分焼	不明
令和4年4月	23時10分頃	共同住宅2階の寝室から出火。帰宅した居住者が、2階の住宅用火災警報器が鳴動しているのに気づき、急いで家の中に入り、火災を発見し、水道水を鍋に汲み初期消火を実施。早期の初期消火により、火災をぼやにとどめ、負傷者等も発生しなかったもの。	ぼや	不明
令和4年4月	13時50分頃	居室にいたところ、寝室から「火事です」の音声聞こえたため避難した。	部分焼	不明
令和4年8月	17時00分頃	住宅用火災警報器鳴動により、居間でテレビを見ていた家人が火災を発見。隣人に助けを求め、屋外水道からホースを使用した初期消火と、自宅ふる水をバケツと洗面器で初期消火を行い消火したもの。消火開始と同時に隣人が携帯電話で119番通報する。	ぼや	設置済み
令和4年10月	12時55分頃	共同住宅1階の居住者が、たばこの吸殻を台所にあるゴミ箱に捨て、ゴミ箱から出火し、居室、和室、洋室の警報器が鳴動。 上階の居住者が警報音を確認し、119番通報した。	ぼや	不明
令和4年10月	18時30分頃	台所の火災警報器が発報し、連動で警備会社のブザーが鳴動したので業者が現場に急行し家人と協力して台所のたらいで消火したもの。	部分焼け	不明
令和4年12月	15時50分頃	居住者が台所のオーブントースターで餅を加熱したまま、リビングに移動してテレビを見ていたところ、リビングに設置していた住宅用火災警報器が鳴動した。急いで台所に向かうと、オーブントースター内の餅が燃えていたため、粉末消火器で消火した。	ぼや	設置済み
令和4年12月	3時00分頃	寝室で居住者が就寝中、原因不明の出火により居室から発煙し、居室、台所、寝室の住宅用火災警報器が鳴動。気付いて目を覚ました居住者が119番通報。初期消火を実施したが消火困難のため、避難したもの。	部分焼	不明
令和4年12月	17時10分頃	高齢男性が、鍋に入れていたおでんを温めるためにガステーブルの火を付け、その後、リビングで食事をしていたところ、室内に白煙が充満し住宅用火災警報器が鳴動し始めたため、直ちに119番通報し、避難した事案である。消防隊到着時、ガステーブルの火は消えていたため、火災には至っていない。	焼損なし	不明

住宅用火災警報器の奏功事例

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令和5年1月	10時45分頃	家の中で焦げ臭いにおいを感じたが、特に気にせず居間でテレビを見ていると、階段に設置してあった住宅用火災警報器が鳴り出したので、確認したところ、和室にある仏壇付近から炎を発見したものの、バケツを使用し、風呂の残り湯をかけて初期消火を実施する。	部分焼け	不明
令和5年3月	2時00分頃	居住者が深夜2時頃トイレに行き、寝室に戻ると、ハロゲンヒーターと布団が燃えていた。1人で消火活動をしていたが、敷地内の隣接した住宅に住む長男夫婦が、住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、火元建物にかけつけ、消火活動を実施し、消火したものの。	ぼや	不明
令和5年3月	16時30分頃	ガスコンロの鍋を空焚きして白煙が出たもの	焼損なし	不明
令和5年5月	9時00分頃	居住者が仏間で落下させたろうそくをそのままにして居間でテレビを見ていたところ、仏間の隣に位置する寝室に設置された住宅用火災警報器が鳴動。それにより火災に気付いた居住者が初期消火を実施し、火災の拡大を防いだ。	ぼや	不明
令和6年1月	18時00分頃	住宅用火災警報器が鳴動したことにより火災を発見、初期消火を実施。 初期消火にあっては、自宅に置いてあった水バケツで燃えている新聞紙や段ボールに風呂の水をバケツで3杯ほどかけたが、火が風呂焚き場の屋根まで燃え上がったため1人では消火することができないと思い119番通報したものの。	ぼや	不明
令和6年4月	8時00分頃	居住者が自宅台所設置のガステーブルグリル内で食パン1枚を焼いている最中にその場を離れていたところ、しばらくして自宅内設置の住宅用火災警報器(3基)が鳴動したものである。 住宅用火災警報器の鳴動と煙に気付いた隣人が119番通報する。	焼損なし	設置済み
令和6年4月	16時30分頃	住宅居住者が台所の電子レンジでパンを加熱し、玄関付近で他の用事をしていた。しばらくすると廊下に設置している住宅用火災警報器(煙式)の音が聞こえたため台所に確認に行くと、電子レンジから発生する煙が台所に充満していたもの。 住宅用火災警報器の作動音を聞いた隣人により、119番通報されたものである。	焼損なし	設置済み
令和6年6月	5時30分頃	就寝中の妻が警報音に気付く、警報音のする台所を確認したところ火災は認められなかったが、奥の部屋を確認すると、ドアのガラス越しに作業場の火煙を確認したものの。 夫は妻の叫び声で火災だと気づき、作業場にあった消火器で初期消火を試みるが効果は無かったため、屋外に避難した。妻は屋外に避難した後、119番通報を実施したものの。	全焼	不明

住宅用火災警報器の奏功事例

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令和6年6月	12時00分頃	住居人が飲酒し、鍋を火にかけてそのまま眠ってしまったため空焚きとなり煙が発生し、住宅用火災警報器が作動したもの。	焼損なし	不明
令和6年7月	17時15分頃	関係者がガスコンロで鍋に火をかけたまま、別室で作業をしており、鍋を空焚きしたことで室内に煙が充満し、住宅用火災警報器の警報音が鳴動し、発見する。	焼損なし	不明
令和6年8月	19時30分頃	隣室に居住している大学生が、住警器の警報音と煙の臭いに気付いたものである。近隣の住民が火災であることを確認し、通報を依頼された大学生が119番通報する。	部分焼	設置済み